

くらしき まち歩き さと歩き マップ



倉敷市
倉敷地区
庄学区

作成：庄学区愛育委員会
発行：倉敷市（令和6年2月改訂）

山地コース 5km

庄中央公園 → 三余塾跡 → 庄の里団地 → 奥の池
→ 若宮神社 → 中央公園

下庄コース 3.0km

庄公民館(避難所) → 下庄公民館 → 宝福寺 →
四ツ堂 → 水神様 → 下庄公民館 → 庄公民館

松島・二子コース 4.0km

覚えてお、災害避難所

松島公民館 → 清心学園 → 川崎福祉大 →
川崎医科大学現代医学教育博物館 → 両子神社
→ 松島公民館

上東・庄新町コース 6.0km

庄公民館(避難所) → 八幡神社 → 王墓山古墳 →
楯築遺跡 → 庄公民館

☎ 公衆電話 🏠 指定緊急避難場所



歴史の宝庫、庄へようこそ!

約 2000 年前より人々が暮らしてきた庄、弥生時代の日本最大といわれる楯築の墳墓や古代人の生活用具が発掘された上東遺跡、そして多くの史跡があります。万寿(まんじゅ)時代には稲作が盛んで松島地区を中心に開拓が進み朝廷の直轄の荘園となりました。温暖な気候で交通の便もよく徳川幕府の天領地として倉敷代官所を中心に栄えました。明治時代になり町村制により庄村として歩み出しました。現在、学園都市として賑わいを見せています。

三余塾跡 (さんよじゅくあと)

犬飼松窓(いぬかいしょうそう)が開塾。農業を重視する立場をとり、農村の青年が学問する場所とした。犬養木堂も10歳から入塾し勉学に励み、後の人間形成に大きな影響を受けた。

船着石 (ふなつきいし)

吉備の国の海部直(あまべのあたひ)の娘で黒姫というとても美しい娘がいた。都で噂を聞いた第16代仁徳天皇は黒姫を妃にした。皇后は黒姫に嫉妬し宮殿から追い出した。天皇は黒姫を忘れることができず皇后には淡路島を見に行くと告げ、吉備の国へ向かった。黒姫に再会した天皇の詠。

山縣に 蒔ける青菜も 吉備人と

共にし摘めば 楽しくもあるか

しばらくの滞在のあと、天皇が帰るときに船着石に船をつないだ。別れを惜しむ黒姫の詠。

倭方(やまとへ) 往くは誰が夫(つま) 隠水(こもりづ)の下よ
延(は)へつつ 往くは誰が夫

古事記に残された恋愛物語。もしかしたらこの地が舞台だったかも...

若宮神社

山地の街を見守るように小高い山にたたずむ若宮神社。

仁徳天皇(若宮)と黒姫を祭っている。

そんな二人を守るように、同じ境内に八幡神社が鎮座している。

仁徳天皇の父、応神天皇を祭った神社。

いにしへの親子の情が垣間見えるようだ。



両見神社 (ふたごじんじゃ)

1800年前、二子高鳥居山にあった。第14代仲哀(ちゅうあい)天皇と神功(じんこう)皇后が、九州、朝鮮半島を征伐して都に凱旋中、航路を二子の地に寄せ、皇子の安泰を祈念した。その時、皇子が2歳を迎えこの地を二子宮と名付けた。万寿の庄総鎮守五座八幡として崇敬されている。

神社の階段の上り口には「蘭草(イグサ)の祖神」の碑がある。

神功皇后が皇子のために敷物を
思し召され、村人が菰を野草で
編んで皇后に奉った。その後、草の
菰を莫蔭(ござ)と呼ぶようになり
備中の豊表の発祥の地と言われた。



楯築遺跡 (たてつきいせき)

弥生時代後期の墳墓と言われ、墳丘の規模は、現在知られている同時期では最大と言われている。墳丘頂部には5個の巨大な岩が立っており、墳丘斜面には円礫帯が巡っている。棺の底には30kgもの朱が敷き詰められ、卑弥呼の墓との噂もある。

王墓山古墳 (おうぼさんこふん)

古墳時代後期の古墳で横穴式石室があり、豊富な副葬品や家形石棺が出土している。この石棺を持つ古墳は有数の規模を誇る有力豪族のものばかりで、王墓山古墳の主も有力者だったことが推測される。



上東遺跡 (じょうとういせき)

2000年前、弥生時代後期の遺跡、日畑 岩倉神社付近に1.5m以上、径が10cm近くある杭の列が幾列も並んで打ち込まれている痕跡が出土した。当時このあたりは港の跡と考えられている。生活道具や占いをする人骨なども出土している。

四ツ堂

昔はその境内の大きな松に旗を掲げて天気を知らせていた。お堂の中には5体の仏像があり、左の端は「いぼ神様」で、「お灰」頂いていぼへ塗れば取れると言ひ伝えがあり参拝者も多かった。お薬師さまと親しまれている。

お堂の北側に、「芭蕉翁墳」があり松尾芭蕉の墓とされる。吉備の俳人如風が師の俳句を埋めて塚を築き、芭蕉の菩提を弔った。



指定緊急避難場所					
	庄小学校	庄中学校	庄公民館	清心女子高等学校	川崎医療福祉大学
洪水	▲3階以上	▲3階以上		○	▲3階以上
土砂災害	○	○	○		○
高潮	○	▲2階以上	○	○	○
地震津波	○	○	○	○	○

指定緊急避難場所とは、災害の危険が切迫した場合の一時的な緊急避難先として、災害の種別ごとに安全性等の基準を満たす施設や場所です。